

令和8年度 11月号 令和8年10月23日



学校だより

熊谷市立石原小学校

<学校教育目標>

生きる力

－ 知・徳・体を高め 未来を拓く－



<校訓>

強く 正しく 睦ましく

後期スタートにあたり

～地域とつながり、社会に広がる子供たちの学び～

秋も深まり、後期の教育活動がスタートしました。前期を振り返ると、日々の授業や様々な体験活動を通して、自ら考え、仲間と協力しながら意欲的に学ぶ子供たちの姿が数多く見られました。一人一人の成長を嬉しく感じるとともに、後期のさらなる飛躍を楽しみにしています。

本校では、子供たちが自ら問いをもち、課題の解決に向けて主体的に取り組む「探究的な学び」の充実を図っています。その特色の一つが、企業や個人事業主、行政機関、市民団体など、地域社会の多様な方々との連携です。

1年生は、熊谷西小学校や立正大学と連携し、「石原小ってどんなところ？」をテーマに学び、2年生は「石原ってどんなまち？」として、地域の商店や施設、歴史的建造物などを通してまちの魅力を探っています。

3年生は、五家宝やいなり寿司、熊谷うどんなど、熊谷の食文化について、職人の皆様やタカヒロフーズ様などから体験を交えて学んでいます。4年生は、熊谷市のごみ問題について、市の環境政策課やごみゼロくまがやの皆様、さらにごみの排出量が少ない桶川市の取組から、課題解決の方法を考えています。

5年生は、食品ロスをテーマに、JAによる農業の現状や課題、スーパーマーケットやびっくりドンキーの取組等について学んでいます。6年生は、防災をテーマに、市の危機管理課や都市計画課による3D浸水シミュレーション、熊谷地方気象台、イオン熊谷店、中央公民館、ソシオ流通センターなどの防災への取組について学びを深めています。また、特別支援学級では、熊谷農業高校やJAの皆様との連携により、農作物の栽培や販売など、体験的な学習に取り組んでいます。

こうした学習に共通しているのは、教科書の中だけで学びを終わらせず、実際の社会に目を向け、自分たちの生活や地域の未来と結び付けて考えることです。専門家の話を聞き、体験し、仲間と考えを深める中で、子供たちは新たな発見や疑問に出会い、学ぶことの楽しさを実感しています。

本校は、「学校での学びが社会につながり、社会との出会いが新たな学びを生み出す」ことに、大きな教育的価値があると考えています。こうした「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、ご協力くださる企業、事業所、行政機関、市民団体、地域の皆様へ、心より感謝申し上げます。

後期も、子供たちの「もっと知りたい」「自分たちに何ができるだろう」という思いを大切に、学んだことを自分たちなりの考えや提案として発信するなど、探究的な学びをさらに深めてまいります。子供たちの学びを学校から地域へ、そして未来へ。保護者並びに地域の皆様には、引き続き温かいご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



【1年生遠足】

10月8日に、埼玉県こども動物自然公園に遠足に行きました。動物の特徴について、じっくりと観察していました。



【2年生遠足】

10月9日に、国営武蔵丘陵森林公園に遠足に行きました。友達と助け合いながら遠足を楽しむことができました。